

## ルワンダ月報（2023年5月）

※以下は、明示的に記載されたものを除き、ルワンダ通信局（Rwanda News Agency）の記事のとりまとめ。

### 1. 内政・外政

- 3日、豪雨により家屋の浸水や地滑りが発生したルワンダ北部と西部では、135人が死亡、100人以上の負傷者が出ている。
- 3日、トルコ政府、アフリカ連合委員長、中国はそれぞれ、ルワンダでの洪水と地滑り被害に対し、ルワンダに哀悼の意を送った。
- 3日、ンダギジマナ財務・経済計画大臣は2023/24-2025/26年の予算と中期予算見積りを国会両院に提出。次年度会計は5兆ルワンダフランを予定。
- 4日、タミーム・カタール首長は、ルワンダを襲った洪水の犠牲者について、カガメ大統領に哀悼の意を表し、負傷者の早期回復を祈る電報を送付。
- 5日、カガメ大統領は、英国のスナク首相とロンドンで会談を行い、現在進行中の移民・経済開発パートナーシップ、世界的なイベント、貿易・投資の拡大に向けた二国間協力などについて協議。
- 6日、ンギレンテ首相は、ブルンジで開催中のコンゴ民主共和国と大湖地域の平和・安全・協力に関する枠組み協定（PSC）の地域監視メカニズム（RMM）第11回ハイレベル・サミットに出席。
- 6日、ロンドンにてカガメ大統領とファーストレディは、チャールズ3世の戴冠式に参加。
- 6日、モルディブとルワンダは、両国ビザを30日間免除することを可能にする、ビザ要件の相互免除に関する協定に署名。
- 6日、今回の洪水・地滑りによる被害を受けた道路、橋、学校、医療施設などのインフラの修復に少なくとも1300億フランが必要とカイシレ危機管理大臣が発表。
- 7日、王駐ルワンダ中国大使は、ルワンダ愛国戦線党（RPF）本部でガサマゲラ RPF-事務局長を表敬訪問し、豪雨被害のお見舞いを述べ、中国共産党とRPFは、共に国の発展をリードする勢力として、親密な関係があると述べた。ガサマゲラ事務局長は、王大使の弔意表明に感謝し、中国による過去30年間のルワンダ国家発展への支援に感謝した。
- 9日、中国の習近平国家主席は、カガメ大統領にメッセージを送り、ルワンダの最近の洪水で命を落とした人々の家族に哀悼の意を示した。
- 10日、カガメ大統領は、ゲレ大統領からのメッセージを持参したユスフ外務大臣率いるジブチ共和国の代表団と会談。アフリカの角の安全保障や、貿

易など二国間協力の推進について協議。両国外務大臣により、農業、観光、外交訓練に関するいくつかの二国間協定が署名された。

- 10日、パリの裁判所で、ツチ族への大量虐殺関連で起訴されたフランス系ルワンダ人、ハテゲキマナの裁判が開始。
- 12日、カガメ大統領は今月初めの洪水と土砂崩れ被害の場所を訪問。ルワンダ政府はまた、洪水や地滑り被害のインフラの再建のために1100億ルワンダフラン（9850万ドル）以上を投入予定。
- 13日、ルワンダ野党緑の党トップであるハビネザ氏は、党の指名を獲得し、来年の大統領選挙に出馬することを明らかにした。（AFP）
- 15日、ビルタ外相はトルコ教育省傘下のマアリフ財団と教育分野、特に技術・職業教育訓練（TVET）に関する協定を締結。（The New Times）
- 16日、カガメ大統領は、今月初めの地滑りと洪水被害に対し追悼と支援のメッセージを送ってくれた指導者たちに感謝の意を表明。中国、フランス、トルコ、バルバドス、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、カタール、イスラエル、モザンビーク、ジンバブエ、セネガルなど数カ国から哀悼の意が寄せられている。
- 16日、カガメ大統領は、ルワンダ原子力委員会（RAEB）とアフリカの将来における原子力エネルギーの重要性について議論し、小型モジュール炉の開発など現在進行中の技術革新を活用するための能力開発に投資する必要性を強調。（The New Times）
- 16日、ハラレで開催されたジンバブエ・ルワンダ合同協力常設委員会（JPCC）にて、両国は、中高等教育、住宅、女性のエンパワーメントの分野で追加の覚書に調印。（The New Times）
- 17日、第6回中国国際輸入博覧会（CIIE）のプロモーション会議がキガリで開催。駐ルワンダ王中国大使、ルワンダ開発庁副総裁、中国国際輸入博覧会局副局長、中国経済・商業顧問、そして地元企業の代表者が会議に参加。
- 18日、カガメ大統領は、国家安全保障シンポジウム出席のためルワンダを訪問しているアフリカ連合委員会のムーサ・ファキ委員長と会談し、地域の安全保障状況を含む問題について協議。
- 19日、カガメ大統領は、陸軍、警察、国家情報局と会合を開き、国家の優先事項を推進する上でのセキュリティ機関の役割について議論した。
- 22日、カガメ大統領は、第3回カタール経済フォーラムに出席するため、ドーハに到着し、カタール航空グループCEOに迎えられた。
- 23日、国会の統一・人権・ジェノサイドとの戦いに関する常任委員会にて1994年のジェノサイドの囚人2万2000人以上が刑期を終えた後、社会復帰と社会復帰を導くための独自のプログラムを開発していると、国民統合・市

民参画省ビジマナ大臣が述べた。

- 23日、ルワンダ・中国同窓会（RCAO）は、第3回総会を開催し、王駐在中国大使とルワンダ外務・国際協力省職員が出席。
- 23日、カガメ大統領は、ドーハで開催された第3回カタール経済フォーラムの傍ら、サウジアラビアのエネルギー大臣と経済・計画大臣と会談。二国間パートナーシップの拡大と、インフラプロジェクトを含むルワンダへの投資に関して協議。また、サウジアラビアの2030年世界博覧会招致に対するルワンダの支援を要請。
- 23日、カガメ大統領は新ブゲセラ国際空港が2023年末には70%の完成率になり、2026年には完成すると発言。カタール航空は同空港の60%の株式を保有し、最近ルワンダ航空の49%の株式を取得する意向を明らかにしている。
- 23日、ンギレンテ首相は、第58回アフリカ開発銀行年次総会の開会式に参加し、譲許的融資制度の拡大と南南協力の強化の必要性を発言。
- 24日、ジェノサイド犯罪に関与したとして指名手配中であったカイシェマ氏が、国際刑事裁判所残余メカニズム（IRMCT）と南アフリカ当局による共同作戦により、南アフリカで逮捕された。
- 25日、ビルタ外相は、アンゴラ、コンゴ民主共和国（DRC）、モザンビーク、南アフリカ、タンザニア、ジンバブエから構成される南部アフリカ開発共同体（SADC）の外交団長からの表敬訪問を受けた。SADCは、5月上旬、コンゴ民主共和国東部の反政府勢力M23との戦いを支援するため、同国に部隊を派遣することに合意している。
- 25日、ルワンダを初めて訪問したウクライナのクレーバ外相は、キガリでビルタ外相と会談し、ルワンダに大使館を開設する予定を発表。両国は政治協議に関する覚書に署名。
- 29日、カガメ大統領は、アフリカ大陸内外の首脳たちとともに、ナイジェリアのティヌブ大統領の宣誓式に出席。
- 30日、ンギレンテ首相は、ブジュンブラにて開催の東アフリカ共同体（EAC）の第21回首脳臨時サミットに出席。

## 2. 開発協力

- 11日、高等技術専門学校（IPRC）Tumba校におけるメカトロニクスプログラムが、ICT・TVET担当のイレレ国務大臣、在ルワンダフランス大使から発表。プロジェクトは、2020年6月30日にルワンダ政府とフランス開発庁（AFD）の間で締結された無償資金協力協定により開始。当プロジェクトはIPRC Tumba校内にメカトロニクスの教育プログラムを創設することで、総

事業費は 62 億 7,500 万ルワンダフランである。

- 16日、少なくとも2億4,200万ドルの民間セクターへの融資資金がルワンダのアフリカ開発銀行(AfDB)の口座で使用されずにいることが、ビジネスダイアログにて明らかにされた。(The New Times)
- 16日、欧州連合(EU)が資金提供し、フランスの技術協力機関であるExpertise FranceとEU諸国の保健機関の協力にて実施するプロジェクトが開始。ルワンダFDA(Food and Drug Authority)によるワクチンを含む医薬品に関する規制機能を強化し、ルワンダの医薬品と食品の安全性を促進することを目的としている。
- 19日、韓国は、コンゴ民主共和国(DRC)とルワンダの洪水で被害を受けた地域に、80万米ドルの人道支援を行うと発表。ルワンダには30万ドルを割当て。
- 23日、日本政府は、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)を通してルワンダの難民対応に対して、50万米ドルの支援を行うことを発表。
- 25日、ルワンダ政府は、ルワンダ環境管理局(REMA)、国連食糧農業機関(FAO)、緑の気候基金(GCF)を通じて、ルワンダにおけるエネルギー効率と持続可能な冷却メカニズム促進のための2つのプロジェクトを開始。
- 26日、国際通貨基金(IMF)はルワンダの政策調整手段(Policy Coordination Instrument(PCI))の気候レジリエンス目標への9,860万ドル(約1,010億ルワンダフラン)の支出を承認。
- 30日、中国政府が実施している保健分野支援の医療従事者派遣プログラムの一部で、派遣された医療チームはキガリで障害を持つ子どもたちのケアや物資寄付を実施。(The New Times)

### 3. 経済

- 4日、ンダギジマナ財務・経済計画大臣は、2023/24-2025/26年の予算枠組み文書(BFP)と中期予算見積りを国会両院に提出。2023/24会計年度の総資源は5兆301億フランで、2022/23修正予算で発表された4兆7648フランに比べ、2,653億フラン、6%増となる見込みである。
- 8日、英国企業ATERIAN PLCは、ルワンダ国内でリチウムを発掘見込みと発表。
- 9日、ルワンダ開発庁(RDB)の年次報告書によると、2023年に30億ドル(約3.3兆ルワンダ)の投資誘致を計画しており、2022年は総額16億ドルの投資を記録。
- 15日、ルワンダ開発庁(RDB)によると、ルワンダは、西ヨーロッパでの投資・観光促進に数百万ドルを投じているが、中国とインドがルワンダ経済

への主要投資元である。2022年、ルワンダは16億ドル相当の投資を誘致したのに対し、49事業からなる1億8240万ドル（11.2%）は中国からであった。（The East African）

以上